



トピックス 岡野賞、学会功労賞の創設にあたって

2003年12月に日本周産期メンタルヘルス研究会が岡野禎治先生（前三重大学教授）を理事長として発足しました。翌年11月には第1回日本周産期メンタルヘルス研究会が開催され、2014年学会として改組され今日に至っています。発足以来の18年間という長きにわたり理事長として本学会の運営に携わり、周産期の母子のメンタルヘルスに関連する領域の学術研究、調査研究、広報、啓発などの推進に努められた岡野禎治先生のご功績に深い敬意を表し、感謝を込めて、第17回大会（2021年）より岡野賞を創設することと致しました。

岡野賞は、今後各大会のポスター発表の中から最優秀として選出された発表と発表者に対して授与されることとなります。岡野賞創設を機に、さらなる本学会の発展と、国内の周産期の母子のメンタルヘルス事業の充実を願っております。

岡野賞とならび学会功労賞も創設しました。昨年初頭よりこれまでに計5波のコロナ感染拡大を経験し、本学会も予定されていた学術集会をはじめ多くの学会活動の停滞や延期を余儀なくされました。このような人類史上100年に一度ともいわれる大禍の中で学会発展のため日常の激務のなかをご尽力されました笠井靖代大会長に、学会功労賞を新設し授与することといたしました。今後も、学会功労賞はこのような学会の発展ならびに存続への多大なご貢献をされた会員に対して、その栄誉を称え授与されることとなります。（理事長／鈴木利人）

岡野賞（日本周産期メンタルヘルス学会最優秀ポスター賞）

岡野賞は、国内の周産期メンタルヘルス活動についてその年に最も必要とされ価値があると認められた発表に与えられるものです。研究、臨床実践、事例検討等の研究方法等に拘らず、母子にとって有益であること、また、臨床実践でモデルとなる発表に与えられます。皆さんの日頃の研究や実践の取り組みなど多くの発表をお待ちしております。

第1回(2021)

岡野賞 辻俊一郎
学会功労賞 笠井靖代

<連載企画> 私たちのまちのメンタルヘルスケア活動 ⑥

滋賀医科大学附属病院における周産期メンタルヘルスケアの取り組み

辻俊一郎（滋賀医科大学産科学婦人科学講座）

岡野賞受賞!

このたびは第1回岡野賞を授与して頂き誠にありがとうございました。今回受賞対象となりました本院の取り組みについて紹介させていただきます。

本院は滋賀県において精神科病棟を備える唯一の総合周産期センターです。それゆえ、地域の診療所等から精神疾患合併妊娠の紹介を多数受けます。従来本院では産科医が当該妊婦さんを診察後に、当院精神科医師に直接診察依頼を行っていました。しかし、多種職連携の重要性が高まるにつれて2015年からリエゾン精神看護専門看護師（以下リエゾンNs.）が主軸となるリエゾン精神科チームの導入を開始しました。本システムでは、産科医は当該妊婦さんを診察後、リエゾンNs.に連絡します。そしてリエゾンNs.が面談を行い精神科受診の必要性および緊急性を判断します。迅速な対応が必要である場合は、そのまま精神科医の診察を受けることもありますが、多くは当該妊婦さんと面談を行い、妊婦さんの生活環境に合わせてより良いタイミングで精神科医に紹介されます。

その結果、精神科受診の初診の妊娠週数が有意に遅くなりました（導入前の中央値が16週、導入後は25週）。また精神科医の初診までに必要な情報が診療録に詳細に記載されており、マンパワー不足が懸念される精神科医の負担軽減にも寄与していました。さらに、リエゾンチームでは多種職におけるカンファレンスを行います（写真参照）。写真に示すカンファレンスではリエゾンNs.の他、母性看護専門看護師、薬剤師、精神保健福祉士、患者支援センター入退院調整看護師が同席しています。また、産科医とも月に1度の情報共有のためのカンファレンスを行うなどまさにリエゾンNs.が橋渡しの役割を担っています。こういった多種職連携は、地域へつなぐことを有意に増加させました（オッズ比6.2）。

今後も本院ではリエゾン精神科チームを中心とした周産期メンタルヘルスケアに取り組んでいきます。



企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 情報関連委員会

当学会では会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください。